

【 会員投稿 】 赤城山あれこれ (1)

星野 安正

群馬県で最も広く親しまれよく知られている赤城山そんな中で「へーそうかい!」と思っていただける内容があるかも知れないので紹介します。

1. 山の構成

山は複成火山で最高峰は外輪山の黒檜山、標高1828mです。地藏岳、見晴山、小沼火山はカルデラ内に噴出した中央火口丘です。長七郎山は小沼火山の火口壁です。荒山、鍋割、鈴ヶ岳は側火山で、頂上はいずれも溶岩ドームです。大沼、覚満淵はカルデラ湖です。元のカルデラは新坂平から小沼の南のおとぎの森までの大きなものが、河川の浸食、中央火口丘による埋め立てにより小さく残り



りました。小沼は噴火口に水が溜まった火口湖で、伊勢崎市内を流れる粕川の源流になっています。下流の山腹には落差50mの不動の大滝があり、冬季の氷壁に囲まれた景色に人気があります。地藏岳から見た大沼はこの山の絶景で、足元には一等三角点があります。裾野は長し赤城山と上毛カルタに詠われた裾野は広く、日本で富士山に次いで2番目です。

2. つつじ

葉が出る前に咲くヤシオつつじ、麓から徐々に咲き上がる山つつじ、開けた所をオレンジに染め上げるレンゲつつじ等々、5月から7月にかけて至るところでつつじの群落が見られますが、中でもレンゲつつじの季節が最高の賑わいを見せます。白樺牧場の牛は、牛がレンゲつつじを食べないことを利用して、レンゲつつじを保護するために放牧をしているのだそうです。下草刈りと施肥が牛の担当です。

3. 赤城神社

大沼湖畔の赤城神社と山腹の三夜沢赤城神社があります。この2つの神社は本社争いをしていて訴訟問題になったことがあります。赤城神社は県内に51、県外に32あるそうです。

4. 神話

赤城山の神と日光の男体山の神が中禅寺湖の領有をめぐり、大蛇と大ムカデに化けて戦争をしました。戦いは男体山の神の助っ人で弓の名手が、赤城山の神の目を射抜き、男体山の神が勝利しました。この戦いの場所となったのが戦場ヶ原、射抜かれた目から滴り落ちた血で出来たのが赤池で、ここは現在バス停もあり、戦場ヶ原散策の拠点となっています。また中禅寺湖の湖畔には歌ヶ浜と言う場所があり、男体山の神が、戦勝祝いをした所とされています。私が秋にワカサギ釣りに行く所です。

一方戦いに敗れた赤城山の神は逃げ帰り、刺さった矢を抜いて地面に突刺すと、そこから温泉が湧き出しその温泉の効能でたちまち傷が癒え、男体山の神を追い返しました。追神が変化し老神になったとか、赤城山の神が老いるまで過ごした温泉なので老神温泉とも言われています。

老神温泉にある赤城神社では、温泉の神である大蛇の神輿を担いで温泉街を練り歩く大蛇祭りが毎年5月に行われています。2013年には世界一長い大蛇という事で、ギネスブックに登録されました、長さは108mです。担ぎ手は温泉客も加わり200人を超えました。

面白いのは群馬県側の神話では、赤城山の神が大蛇で男体山の神が大ムカデになっていますが、栃木県側の神話では反対に、男体山の神が大蛇です。

男体山の登り口にある、二荒山神社(二荒山は男体山の古名)の神輿は とぐろを巻いた 大蛇です。

5. 徳川埋蔵金伝説

徳川幕府の隠し金が赤城山にあると信じた人達によって今でも発掘が続いているそうですが、多くは失敗に終わっている。糸井重里氏のテレビ番組を見入った人も多かったと思います。そこで赤城山は囃(おとり)で真の埋蔵場所は他にあるとの説が広がりその中の1つに世良田東照宮があるそうです。〈続く〉

＜事務局より＞：「名月赤城山」という名曲があります。「赤城の山も今宵限り、かわいい子分のでめえ達とも別れ別れになる門出だ」という名セリフで知られる侠客・国定忠治が拠点とした赤城山を追われ、会津へと落ちのびてゆく有名な場面を東海林太郎が歌った往年の大ヒット曲です。この曲を今、島津亜矢が歌い継いでいます。「男心に男が惚れて」という最初の一節で、この歌の背景と忠治の心の行方を見事に歌っています。島津亜矢の凄味を感じさせる一曲です。菱の実会ホームページの「今月のおすすめ動画」からご覧ください。

【 会員投稿 】 赤城山あれこれ (2)

星野 安正

6. 日本百名山

赤城山は日本百名山に選ばれています。選者は深田久弥(登山家、山岳ジャーナリスト)です。山の品格、歴史、個性を基準としているそうです。群馬県には県境にある山を含め11座が選ばれており、長野県、山梨県に次いで3番目です。

- ・花の百名山と言うのもあります。選者は田中澄江(随筆、脚本家)で黒檜山(クサタチバナ)地蔵岳(アツモリソウ)が個々に選ばれています。地蔵岳は他に 一等三角点100名山にも名前があります。
- ・桜の名所100選に赤城南面1000本桜が選ばれています。県内ではもう1つ藤岡の桜山公園です。
- ・日本の滝100選には、渋川市赤城町棚下の棚下不動の滝(裏見の滝)が選ばれています、
- ・美しい日本の歴史的風土100選、県内には残念ながら該当なしですが、準100選に「草津温泉の湯畑と温泉街のたたずまい」と三夜沢の「赤城神社と参道の松並木」があります。参道には 3.2 Kmに亘り 400 本の松と 7000 本の山つつじの古木が両側に並びます。
- ・日本の夜景100選と言うのが有ります。県内では県庁ビルの展望ホールと赤城南面の大パノラマ夜景展望台が選ばれています。夜景に特化した名称の展望台は日本でここだけのようです。場所は小沼から忠治温泉へ下る道の右側です。物音1つしない、明かりもないところで少し不気味です。

7. 河岸段丘

約15万年前、赤城の鈴ヶ岳の噴火による火砕流が子持ち山方面に流れ下り、利根川や片品川を堰き止め大きな湖が出来ました。ここに周囲の山から崩れたり、上流から運ばれた土砂が堆積し、湖底は平坦になりました。その後水位の低下により平坦部が露出、さらに新たな川の水面での周囲の侵食でまた平坦部が出来、これを繰り返し、平坦部と侵食により急峻になった崖で階段状になった地形が出来ました。このような地形を河岸段丘と言います。



左端 沼田市街 中央 片品川橋 右 昭和村

沼田の市街地は河岸段丘の上にあります。つまり沼田の市街地は昔、湖の底だったということになります。片品川に沿った昭和村の広大な河岸段丘の上は村落と、野菜畑になっています。

国道120号線も河岸段丘の上にあります、ここを走ったら片品川を挟んだ対岸の赤城山の麓を見てください。段丘崖は急峻で利用出来ないため森になっています、水平に伸びた森や、森に縁取りされた段丘面が良く見えます。最上段はびっくりするほど高い所に見えます。この河岸段丘は雄大さと、美しさで日本一と言われています。地理の教科書に載っている他、海外にも紹介されました。

8. 桐生砂と鹿沼土

園芸愛好家に鉢土の基本用土としてよく知られています。共に水持、水はけ、通気性を生かしそれぞれ植物にあわせ単独又は混合で使用されています。実はこの両者とも赤城山の噴出物です。偏西風によって流され、東側に分布しています。

鹿沼土は栃木県鹿沼市の特産で、多いところでは1.5mにもなる地層になっています。遠くは茨城県の海沿いにまで分布しているそうです。富士山の火山灰が関東ローム層になっているのと同じです。

9. 流山

千葉県の北西部に流山市があります。野田市や柏市に隣接しています。ここに赤城山と言う、高さ15m周囲350m程の小さな山があります。山の上には赤城神社が祀られています。

この山は利根川の大洪水で赤城山の山体の一部が流されてきた山である、と言う伝説が有ります。流れて来た山だから流山、流山市の名前の由来となっています。

主にネット上で拾った情報ですが1つくらい「へーそうかい！」があったでしょうか。複数の事項に異説があることをご承知おき下さい。また一部、私見も入っています。